

2025年度 市民講座のご案内

テーマ **「がんの体験を聞いてみよう」**
～療養中の気持ちの乗り越え方や大切な人とのコミュニケーションをとる方法について～
阿蘇敏之さん(がんサロン おしゃべりパティ代表／公益社団法人 日本対がん協会 リレー・フォー・ライフ・ジャパン・アシスタントマネジャー)と当院呼吸器内科 清水秀文医師との対談

日 時：2025年5月28日(水) 11:00～12:00
会 場：JCHO東京新宿メディカルセンター本館1階 玄関ホール
対 象：市民の方
定 員：30名(先着順)
参加費：無料
申し込み方法：二次元バーコード もしくは 電話(03-3269-8137)



＜市民講座申し込み＞

2025年度 がん患者サロンのご案内

【第1回】
テーマ **「がんの体験を聞いてみよう、話してみよう」**
～療養中に辛くなったこと、迷いなどみんなで語り合ってみませんか～
・阿蘇敏之さん(がんサロン おしゃべりパティ代表／公益社団法人 日本対がん協会 リレー・フォー・ライフ・ジャパン・アシスタントマネジャー)
・当院呼吸器内科 清水秀文医師

日 時：2025年6月18日(水) 14:30～16:00
対 象：当院または他院通院中のがん患者さま
定 員：15名

【第2回】
テーマ **「こころのもちよう」**
・立正大学 心理学部 教授 幸田るみ子先生(精神科専門医、精神腫瘍医)

日 時：2025年7月11日(金) 14:30～16:00
対 象：当院または他院通院中のがん患者さま、ご家族さま
定 員：26名



＜第1回サロン申し込み＞



＜第2回サロン申し込み＞

第1・2回ともに
会 場：東京新宿メディカルセンター附属看護学校1階
ナイチンゲールホール
参加費： 無料
申し込み方法:二次元バーコード
もしくは 電話(03-3269-8137)、がん相談支援センター窓口

今年度の上記2回は、がん療養中の「こころ、きもち」にスポットを当て、参加者同士で語り合いを行います。



独立行政法人 地域医療機能推進機構
東京新宿メディカルセンター

発行:JCHO東京新宿メディカルセンター がん診療委員会
〒162-8543 東京都新宿区津久戸町5-1
電話 03-3269-8111 (代表) URL : <http://shinjuku.jcho.go.jp>



独立行政法人 地域医療機能推進機構
東京新宿メディカルセンター

がん診療情報誌

いきいき かぐらざか

れんげ草には「心が和らぐ、苦しみを和らげる」という花言葉があります。
「みなさんが自分らしく過ごせるように」と言う意味をこめて情報誌を作成しております。

Contents

- 遺伝カウンセリング外来開設・・・ 1P ●緩和ケア病棟 ボランティア募集・・・ 3P
- 一緒にがん治療を乗り越えましょう・ 2P ●市民講座・患者サロンのご案内・・・ 4P

JCHO東京新宿メディカルセンター がん診療委員会



遺伝カウンセリング外来開設

泌尿器科 医長 加藤 繭子

遺伝子は、生き物を形作るタンパク質などの設計図です。ヒトの体を形成する数十兆個の細胞において、遺伝情報は同一で一生変化しません。遺伝子の半分は父親から、半分は母親から、親から子へと代々受け継がれます。つまり、両親のどちらかの遺伝子に、病気を引き起こす可能性がある変化があった場合、子供にも遺伝する可能性があるのです。がんは多因子病と言われており、喫煙に代表される生活習慣などの環境要因と、遺伝子による遺伝要因が関わっています。変化のある遺伝子を受け継いだからと言って、子世代が必ずしもがんになるわけではありません。

近年のゲノム医療の進歩により、診断や治療を目的とした遺伝学的検査が日常診療として幅広く行われています。米国の女優、アンジェリーナジョリーさんが乳がん及び卵巣がんにかかりやすい遺伝子であるBRCA1に変化を認めたため、乳がん及び卵巣がんを予防するために手術を行ったことも話題になりました。ある特定の遺伝子に変化がある患者さまにおいて治療効果が見込めるような薬もあるため、薬の適応があるかどうかを判断する目的でも遺伝学的検査は行われています。泌尿器科領域においては、2020年12月に一部の前立腺がんにおいて、BRCA1およびBRCA2に変化があった場合、リムパーザ®の使用が保険適応になりました。現在は、乳がんや卵巣がん、膵がん、子宮体がんにおいても、ある一定の基準を満たせばリムパーザ®の使用が可能です。このように、遺伝学的検査の結果、遺伝子に変化がある場合には治療選択肢が広がるというメリットがあります。また、がんになりやすい遺伝子に変化があることを知ることにより、その遺伝子に関連した病気が生じていないかを定期的に検査し、がんの予防として手術を行うことも可能となります。遺伝学的検査は様々なメリットがありますが、病気を引き起こす原因となりうる遺伝子の変化は、次世代に受け継がれる可能性があるため、子や孫がその遺伝子に関連した病気にかかる可能性もあるのです。

このように、遺伝子は血縁者間で一部共有されているため、個人の遺伝情報に十分配慮する必要があります。遺伝学的検査のメリット、デメリットに納得していただいてから遺伝学的検査を行うことを目的として、遺伝学的検査の前後では、患者さまやご家族に遺伝カウンセリングを行うことが推



奨られています。2025年3月より、遺伝や遺伝子に関係する病気に関するお悩みやご相談がある方々を対象とした、臨床遺伝専門医による遺伝カウンセリング外来を開設しました。臨床遺伝専門医は、遺伝医学についての知識を活かして、それぞれの診療科と連携しながら専門的検査や診断を行うことを目的として認定されています。日本国内の医師数は約34万人と言われていたますが、人類遺伝学会が認定する臨床遺伝専門医は2025年2月5日現在1,964人と少数であり、そのうち泌尿器科医は12人と非常にわずかです。遺伝カウンセリング外来では、ご自身やご家族の遺伝に関する悩みを伺い、遺伝が関わる病気に対する正しい医学的知識と情報をわかりやすくお伝えしています。また、がん看護専門看護師と協力して心理面のサポートも行います。生殖医療専門医を取得した医師が担当しており、遺伝カウンセリングは泌尿器科疾患に限らず行っております。診療は完全予約制ですので、まずはお電話ください(外来予約センター: 03-3269-8180)。保険診療が認められた遺伝学的検査の結果を聞く場合は、保険診療で遺伝カウンセリングを受けることができます。

インターネットなどでは、「遺伝」や「遺伝性疾患」に関する様々な情報があふれていますが、必ずしも正しい情報ばかりではなく、科学的根拠に基づかない情報も含まれています。皆さまの不安や疑問が少しでも解消できるようサポートしたいと思っています。少しでも不安な点や心配なことがあればご相談ください。

一緒にがん治療を乗り越えましょう 歯科・歯科口腔外科 部長 中根 綾子

口腔(こうくう)領域(お口や顎(あご))は、食事や他者とのコミュニケーションなど日常生活の質を維持するために極めて重要です。がん治療に伴い口腔に出現する副作用は、痛みにより食事や会話を妨げ、口腔細菌による感染を引き起こします。歯科では、かかりつけの歯科医院と協力してこれらの機能をサポートするために、がん患者さまと並走致します。患者さまをサポートする期間は手術の前後や化学療法(抗がん剤)、放射線治療の

時期だけではなく、継続的な緩和ケアを行います。緩和ケアとは、がんによる心と身体の苦痛をやわらげ、自分らしい生活を送れるようにするケアのことです。近年、がんは治る病気、もしくは長期的に共存できる病気となっています。いかに普段通りの生活を過ごすことができるかが大切です。歯科を受診するタイミングは、治療の内容により異なります。主治医の先生とご相談の上受診いただき、一緒に治療を乗り越えていきましょう。

がん治療を乗り越えるための主な歯科の役割



手術の前後

- ・口腔ケア 手術の際に口腔細菌が肺に侵入し生じる、術後肺炎を回避
- ・歯の保護 全身麻酔の気管チューブから歯を守るためにマウスピースを装着



化学療法(抗がん剤)や放射線療法中

- ・薬剤や保湿剤使用 副作用による口内炎や粘膜炎の症状緩和
- ・口腔ケア 免疫力の低下による口腔感染症を防ぐための口腔衛生管理



緩和ケア

- ・歯科治療 苦痛を和らげ快適に過ごすための処置
- ・口腔ケア 他者とのコミュニケーションを円滑にするための口腔衛生管理

【歯科医師がお手伝いできること】

歯科医師は、がん治療中にトラブルが生じそうな問題がないかをチェックし、治療を完遂できるよう処置を行います。抗がん剤治療による口内炎(写真1 日本歯科医師会HPより)は抗がん剤治療開始2~10日後、口腔周囲への放射線治療開始1~2週間後に出現しやすく、薬剤の処方により疼痛緩和、治療促進を行います。また、体型の変化等により義歯が合わなくなった場合には調整修理を行います。抗がん剤の影響で食事の嗜好が一時的に普段と変化したり、口内炎や口腔乾燥が生じて嚥下が困難になる場合には、食事や形態の工夫などのアドバイスをを行います。



写真1 抗がん剤治療中の口内炎
舌の裏側が大きくだだれ、傷を作っています。
痛みで食事や会話も大変な状態です。



【歯科衛生士がお手伝いできること】

歯科衛生士は、患者さまそれぞれの口腔内の状況に合わせた適切な口腔ケアの方法を指導し、口腔内の清潔を保つためのサポートを行います。治療中は体調の変化などでセルフケアが困難になることもありますので、治療のタイミングに合わせてプロフェッショナルケアを実施し、歯石やプラークの除去などを行います。それにより口腔内の清潔を保ち細菌感染(写真2 日本歯科医師会HPより)を防ぎます。



写真2 抗がん剤治療中の歯肉感染
抗がん剤が始まって1週間後、免疫が落ちてきた時期に、歯肉が腫れてきました。
もともと歯周炎があった場所でした。



歯科・歯科口腔外科スタッフ

以上のように、がん治療時の歯科治療は患者さまの約40%の方に出現するといわれている口腔内の副作用を低減させることができます。がん治療中に口腔内の副作用を回避できると、しっかりと食事をとることで体力を維持することができ、治療継続の一助となります。口腔内に不快感があると、他者とのコミュニケーションも億劫になってしまいます。ともにがん治療を乗り越え大切な口腔機能を維持させましょう。



緩和ケア病棟 ボランティア募集のお知らせ

当院の緩和ケア病棟では、患者さまとご家族が穏やかに過ごせる環境を支えるため、ボランティアを募集しています。

活動内容 ・患者さまへのティーサービス

- 応募資格 ・18歳以上の方(高校生不可)
- ・患者さまと温かく接することができる方
 - ・継続的に活動できる方(週1回程度を目安)
 - ・医療や福祉に関心のある方

活動時間 ・平日 13:30~16:00くらい(活動時間は応相談)

申込方法 ボランティアにご興味のある方は、下記お問い合わせ先にご連絡ください

説明会・研修 ご応募いただいた方には、ボランティア活動の概要を説明するボランティア講義にご参加いただけます。
温かい心で患者さまと向き合い、安心できる時間を提供するお手伝いをしませんか? 皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

お問い合わせ先 緩和ケア病棟(ボランティア担当) 金石(かねいし) まで
TEL: 03-3269-8111(代) または Email: kankannjp@gmail.com

